

平成23年度 年報

駒ヶ岳・大沼



【平成23年7月 モデル事業地におけるボランティア下刈作業の様子（七飯町／吉野山国有林）】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

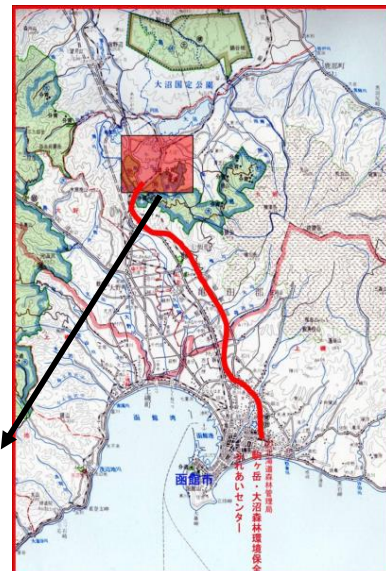
林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国立公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所の選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、「多様性のある森林への再生」と当該地及び近接地において「森林環境教育の推進」を主とし、取り組みを進めることとしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度
グランドデザイン作成ために
3回実施。
 - 平成17年度～平成23
年度「グランドデザイン」に
基づく事業内容の検証
及び検討のため年に2回
実施。

☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成23年4月26日（火）、南北海道大沼婦人会館（七飯町）において、20名の委員が参加し第7回「大沼自然豊かな森づくり協議会総会」を開催しました。宮崎会長を議長に、平成22年度の実行内容、23年度の計画と実行体制について事務局より提案の後、討論を行いました。

委員からは、「多様性のある森林への再生の取組を更に強化すべき」、「各種植生調査の継続化を」などの意見が出されました。併せて、役員体制については全員が再任され、今後も会長を中心として、自然再生等の各種事業実行に当たり、お互い協力・連携を図りながら取り組むことを確認し総会を終了しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。

【協議会の様子（平成23年4月26日）】



協議会参加団体等名

- 大沼漁業協同組合
- 大沼町内会連絡協議会
- 大沼の水と緑を守る会(NPO)
- 大沼マイルストーン22(NPO)
- 北海道森林鳥類調査室クマガウ研究会(NPO)
- 函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
- 21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会
- 個人会員及び関係行政機関

☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



大沼・駒ヶ岳



自然再生に取り組んでいる吉野山国有林



ドイツトウヒ人工林



ドイツトウヒ複層伐跡地



針広混交林へ誘導



カラマツ人工林

「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成23年度の主な実施内容は、次のとおりです。

「自然環境モニタリング調査」の実施

平成23年6月～2月にかけて、多様性のある森林への再生区域である吉野山事業地を対象に、森林推移の状態に関する情報を的確に把握・分析するとともに、森林に生息する野生鳥獣の生息の調査を行い、多様性のある森林への再生を図る有効性について検証を行う基礎資料の収集を目的とした「自然環境モニタリング調査」を実施しました。今後は、収集した貴重な資料を基に、更なる自然再生事業の展開へと繋げていきます。



「下刈作業」の実施

平成23年7月14日（木）、大沼地域自然再生等モデル事業の「多様性のある森林への再生箇所」において、大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバーなど総勢28名により、下刈作業を実施しました。

作業地は吉野山国有林（七飯町）のドイツトウヒ伐採跡地で、平成18年にミズナラやトチノキの実を播種した箇所で行った。苗木は2メートルを超える雑草に覆われており、参加者は雑草をかき分けて苗木を探し、慎重に鎌を振り、降り出した雨の中での作業となりました。

成長したミズナラとトチノキ



「国際ワークキャンプ」の受け入れ

「国際ワークキャンプ」とは、世界中から集まった若者が一緒に生活し、「森林の手入れ」、「動植物の保護」、「有機農業の支援」、「学校の建設」などを行う「国際ボランティアプロジェクト」で、世界約100か国、約3,000箇所で行われています。日本では国際ボランティアNGOのNICE(ナイス)が「国際ワークキャンプ」の企画、運営、参加者の募集等の事務を行い、日本各地には実施する協力団体があり、北海道では函館市にある「北海道国際交流センター」が受皿団体になっています。

当ふれあいセンターでは、吉野山国有林（七飯町字大沼）で実施している「大沼自然再生等モデル事業」において、自然再生等への取組の一環として、各種森林ボランティア活動の機会を提供しています。例年どおり2ヶ月間を予定していましたが、東日本大震災の影響等から、短期間のキャンプとなり、フランス、スペイン、チェコ、オーストリア、台湾、韓国、日本など7カ国、20代を中心とした若者が、ここ大沼に集合しました。

当センターが担当する”森林ワーク”では、7月27日から2日間と9月6日から2日間、歩道刈や歩道修理などの作業をサポートしました。

キャンパーに概要説明



PHOTO

歩道刈作業



歩道修理作業



検討委員会の開催

平成23年12月12日（月）に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）について、各委員20名の参加のもと、「第1回大沼地域自然再生検討委員会」を南北海道大沼婦人会館で開催しました。議題は今年度実施した鳥類観察会及び希少野生植物類観察会についての報告を受け、カラマツの施業方法について意見交換を行いました。また、平成24年3月5日（月）に、「第2回検討委員会」を開催し、自然環境モニタリング調査結果を報告、各委員から出された貴重なご意見をモデル事業に最大限反映させるよう取り組んでいきたいと考えています。

第1回



保育間伐の実施

平成24年3月12日（月）に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）において、大沼自然豊かな森づくり協議会メンバーなど総勢17名の参加のもと保育間伐を実施しました。作業地は昭和57年度に植栽されたトドマツ人工林の最上部、ツル絡み等で苦戦しながらも皆で協力しながら作業を終えました。



☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の樹木博士認定常設コース（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための樹木博士認定会の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。



樹木博士認定会とは

樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

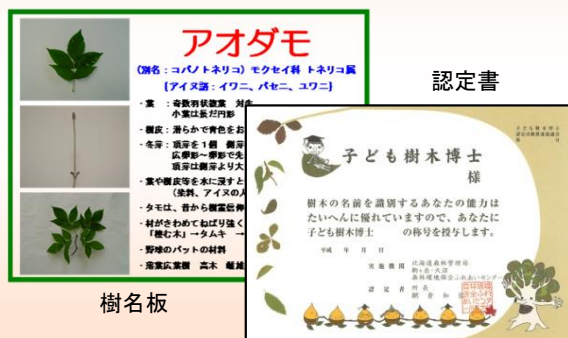
樹木博士認定コース

子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立 現会長：木平勇吉東京農工大学名誉教授）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年定期的（年4回）に開催しています。



進め方

1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い成績に応じて段級（最高位は10段）を与え、認定書を授与します。



コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [450 m]
テストコース [390 m]
周 遊コース [2050 m]
- ◆ 試験 樹 種 46種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全70ページ」（平成23年3月発行）

このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



平成23年度の樹木博士認定会の取り組みについては、公募により4回（5月，7月，8月，9月）の定期開催を実施しました。また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で取り組んでいる生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の開催結果の内容については、次のとおりです。

第1回開催



第1回は、対象樹木を20本を選定し、スタートしました。

第2回開催



第2回は、30本と20本の2班で。

第3回開催



第3回は、常設コースを飛び出して30本を選定。

第4回開催



第4回は、常設コースを飛び出して20本を選定。

本年度の定期開催の参加者総数は36名であり、そのほとんどは大人の常連者であることから、子ども（教育機関等）への働きかけが必要となっています。

● 定期開催結果

回数	認定会日時	参加者	内 訳
第1回	6月5日（日）10:00～12:30	14人	子ども3、大人11
第2回	7月10日（日）10:00～12:30	8人	子ども0、大人8
第3回	8月7日（日）10:00～12:30	6人	子ども0、大人6
第4回	9月11日（日）10:00～12:30	8人	子ども1、大人7

● その他開催

その他開催（日吉が丘児童館森林教室・森への誘い講座）	56人	子ども25、大人31
----------------------------	-----	------------

● 樹木博士認定状況

23年度末 累計	1,815人（平成12年度の旧函館分局から行ってきた計です）
----------	--------------------------------

☆ 森林づくり塾2011 開校

目的

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、森林作業の技術の習得、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、**森林ボランティア作業への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となりうる人材の育成**を目的としています。

森林づくり塾の取り組みについては今年度で5年目となります。参加者は公募を行った結果、函館市近郊から22名となり、森林作業を中心とした全6回の講座を実施しました。各講座の実施内容については、次のとおりです。

第1回講座

「国際森林年記念植樹祭」に併せて実施し、塾生には植樹（植付）の基礎知識について、体験を通して学習してもらいました。当日は、塾生含む総勢150名が参加して開催され、面積約0.33ヘクタールの植樹会場にスギの苗木約1,000本を一本一本丁寧に植えました。



第2回、第3回講座

第2回は、「下刈作業・シカネット撤去」を実施して、その目的・効果などを学習。第3回は、講師に北海道アウトドアガイドの自然観察指導員 木村マサ子さんを招き「草本類の観察会」を函館山登山コースにおいて実施し、それぞれ心地よい汗を流しました。



第4回、第5回講座

第4回は、齋藤 晶 樹木医を講師に招き「森林環境教育の基礎講座」、また前々回同様「下刈作業」を実施。第5回は、森林体験としてトドマツ人工林の「枝払い」・「間伐」を実施して、その目的・効果を学習しました。



第6回講座

第6回（最終）は、茂辺地自然体験の森において見学会を実施。また、渡島総合振興局の方を講師に招き「森林ボランティア基本講座」と題して、森林ボランティア団体の現状や参加の仕方などの講義も実施しました。

最後には、塾を締めくくる閉講式・修了証書の授与を行い、本年度の全講座を終了しました。



☆ 自動撮影装置による野生動物撮影

当センターでは、大沼周辺(七飯町)の森林における野生動物(中大型哺乳類等)の生息調査を実施しています。

- 調査目的・・・野生動物の生息状況を長期的に記録し、その変化と環境の変化とのかかわりを研究する。
- 調査方法・・・自動撮影装置(カメラ)による撮影(焦電型赤外線センサーに反応する動物を撮影)
- 調査時期・・・年2回(夏、秋)実施



PHOTO



エゾシカ



ニホンテン



エゾタヌキ



エゾリス



コウモリ



ヒグマ

☆ その他（森林環境教育等）

🌲 「国際森林年記念植樹祭」の開催

平成23年5月21日（土）、森林づくり事業実行委員会と北海道森林管理局 函館事務所主催による「国際森林年記念植樹祭」が、知内町のミナゴヤ国有林において、総勢150名参加のもと開催され、当ふれあいセンターも森林づくり塾2011塾生を引き連れて参加しました。

国際森林年植樹祭は「森林を歩こう」がテーマにあり、当日は、雨天に恵まれ会場まで徒歩となる場面もあり、スケジュールがおしてしまいましたが、参加者はスギの苗木約1,000本を、クワやスコップを使用し、面積約0.33ヘクタールの植樹会場に一本一本丁寧に植え、心地よい汗を流しました。



🌲 高校生を対象とした下刈作業をサポート

平成23年 6月10日（金）、函館有斗高等学校

平成23年 6月15日（水）、函館柏稜高等学校

風倒被害跡地に平成18年10月12日「柏稜 永久の森 0.50ha ミナナ400、ブナ300、カバ300本」、10月21日「有斗希望の森 0.52ha ミナナ1000本」として植付し、以降新入生に環境教育の一環として渡島森林管理署が講義を含め下刈作業を実施しています。今年度から、当センターもサポートしています。



🌲 はこだて花と緑のフェスティバル2011に参加

平成23年6月25日（土）・26日（日）、JR函館駅西口横（大手町）において、「はこだて花と緑のフェスティバル2011」が開催され、当ふれあいセンターはその両日に参加し、森林環境保全ふれあいセンターの活動内容、自然再生モデル事業及び森林環境教育の取組内容、また森林の植物写真を「パネル展示」で紹介したほか、「巣箱作り（木工品）」体験も併せて行いました。

当センターのブースでは、パネルを見学して一緒に写真を撮る人や、また、巣箱作り体験においては、用意したキットはあっという間になくなるなど、たくさんの方々で賑わいを見せ、人々と交流する中でとても有意義な一日となりました。



日吉が丘児童館の森林教室をサポート

平成23年8月5日（金）、函館市日吉が丘児童館主催のクラブ活動が、20名参加して行われ、当ふれあいセンターは4名の講師を派遣し、講座のサポートを行いました。参加者には、児童館構内に植林されているクロマツやミズナラなど11種類の樹木を対象にした「子ども樹木博士認定会」と「巣箱づくりまたはクラフトづくり」をそれぞれ体験してもらいました。「認定会」では、学習の成果が発揮されて好成績の児童が多数を占め、「クラフトづくり」では、自由な発想で作品をつくりました。



「国際森林年記念育樹祭」の開催

平成23年9月4日（日）、北海道森林管理局函館事務所・渡島森林管理署・当センター主催による「国際森林年記念育樹祭」が、七飯町軍川国有林において、総勢150名参加のもと開催されました。

国際森林年育樹祭は、事務所持ち回り開催で行われ局にバトンを繋ぎました。現地は28年生トドマツの枝払いと間伐作業で、腰鋸を使用し、心地よい汗を流しました。すっきりさせた後、ギター講師演奏会、小学生によるベース演奏に聞き惚れました。



檜山森林管理署（厚沢部町）主催「グリーンスクール」の講座をサポート

平成23年9月14日（水）、江差北小学校（全学年約120名）を対象とした、檜山森林管理署主催「秋のグリーンスクール」が開催され、当ふれあいセンターはそのクラフトづくりを担当し、児童たちは思い思いの作品を完成させていました。



渡島東部森林室主催「森への誘い講座」をサポート

平成23年10月19日（火）、渡島総合振興局東部森林室（函館市柳町）主催「森への誘い講座」が、七飯町の樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）で開催されました。

当日は、ユキムシが飛び交う中、参加者（38名）の熱心に勉強する姿勢や、自然を満喫し楽しむ風景が見られるなど、それぞれが充実感をもって終了することができました。



道民森づくりネットワークの集いに参加

平成23年10月22日（土）、道庁赤レンガ庁舎前庭（札幌市中央区）を会場に「道民森づくりネットワークの集い」が開催されました。当センターからは、今年度実施した「大沼地域自然再生等モデル事業」「森林環境教育」などの取組についてパネル展示し、雨の中にも関わらず関心を寄せた方々と交流することができました。



赤川児童館の生徒を対象にした森林教室を実施

平成23年11月12日（土）、4名の講師を派遣し、24名の活動のサポートを行いました。

木材などを身近に感じてもらうことを目的に、クラフトづくり体験を行いました。お母さんも真剣に材料を選びトチノキの実やドングリの実、木の枝を使ったみごとな作品を作ったりしました。



職員を対象とした冬芽観察会を実施

平成24年2月17日（金）、七飯町の樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）で「冬芽で樹木を見分けよう」と渡島森林管理署・檜山森林管理署等から希望者を募り総勢17名の参加のもと観察会を実施しました。JRが運休するほどの悪天候の中でしたが、石狩地域森林環境保全ふれあいセンターとの現場交流も初の試みとなりました。

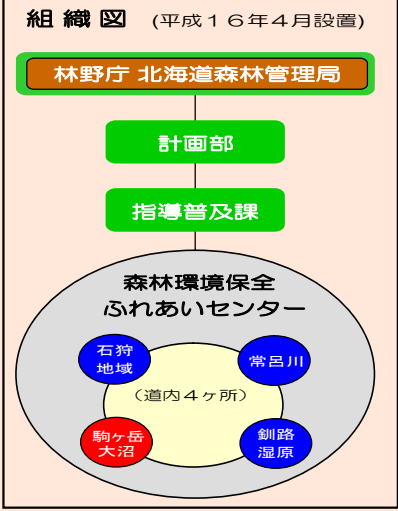


駒場小学校5年生の社会(林業)にゲストティーチャーとしてサポート

平成24年2月22日（水）と、24日（金）の社会の時間にゲストティーチャーとしてサポートを行いました。

林業に携わる人たちの思いや願いを児童が調べ、疑問に思うこと等を発表させ、その疑問に私たちが答え、次に、林業に携わる人の思いを考え、ワークシートに書いて発表し、私たちの思いや願いを検証する授業のサポートをしました。45分間の限られた時間でしたが、担い手問題や安全管理体制に関心を寄せる児童もいて驚きを感じました。





国有林は「国民の森林」です。皆さま方からのご意見ご要望等をお待ちしています。

林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

〒042-8550 北海道函館市駒場町2-13
TEL 0138-51-0381
FAX 0138-51-8178
E-mail h_koma_f@rinya.maff.go.jp